

## 平成22年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[商標]

【問題】

**甲**は、指定商品「茶」について登録商標「BCD」を有している。**甲**の商標権は、昭和62年（1987年）9月1日商標登録出願、平成元年（1989年）6月30日に設定登録され、平成11年（1999年）7月30日に第1回目の更新登録がされたものである。

また、**甲**は、指定商品「菓子」について、上記登録商標に基づいた防護標章登録出願を平成18年（2006年）8月1日に行い、平成19年（2007年）1月31日に設定登録を受けている。

**乙**は、商品「茶」について商標「bcd」の使用をすることを予定して調査を行ったところ、商標「bcd」に類似する**甲**の上記登録商標の存在を知った。しかし、**甲**の商標権については、**乙**が調査を行った平成21年（2009年）8月10日の時点において存続期間の更新がされていなかった。このため、**乙**は、同年9月1日より、商品「茶」について商標「bcd」の使用を開始した。

**丙**は、指定商品「茶、菓子」に係る商標「BCD」について平成21年（2009年）7月31日に商標登録出願をした。

以下、設問(1)に答え、設問(2)及び(3)については上記事例の場合において答えよ。

なお、**甲**の商標登録には無効理由、取消理由のいずれも存在しないものとする。また、「茶」及び「菓子」は互いに非類似の商品とする。解答に際して、マドリッド協定の議定書に基づく特例は、考慮しなくてよい。

設問(1)

商標権について存続期間を設けた趣旨を、特許権の存続期間の趣旨に言及しつつ述べよ。

設問(2)

① **甲**が、当該商標権の更新登録の申請を平成21年（2009年）11月2日に行った場合における更新の効果について述べ、**乙**の使用行為が**甲**の商標権の侵害となることはあるかを説明せよ。

② **甲**が、当該商標権の更新登録の申請を平成22年（2010年）2月1日に行った場合における更新の効果について述べ、**乙**の使用行為が**甲**の商標権の侵害となることはあるかを説明せよ。

設問(3)

**丙**の商標登録出願に係る商標の登録について、平成21年（2009年）8月10日の時点において、**丙**の代理人として想定すべき、**甲**の登録商標及び登録防護標章が障害となる拒絶理由を説明せよ。

【100点】